【資料1】

北海道総合開発計画・北海道型地域構造について

国土交通省 北海道開発局

平成30年2月7日

国土交通省

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

1. 北海道総合開発計画の推進について

国土交通省
「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

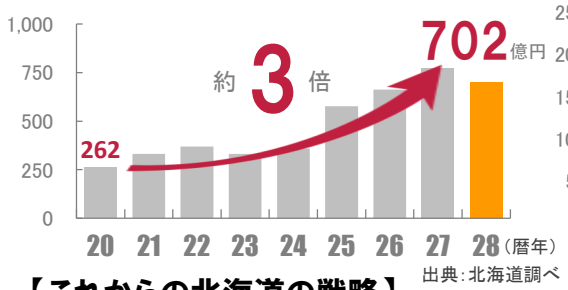
○ ８期目となる北海道総合開発計画(平成28年３月閣議決定)では、北海道の強みである**「食」**と**「観光」**を戦略的産業として位置付け、食と観光を担う**「生産空間」**を支え、**「世界の北海道」を目指す**のが計画のポイント。
○社会や時代の要請を踏まえながら、「世界水準の観光地の形成」「食料供給基地としての持続的発展」等に重点的に取り組む。

計画のポイント

【北海道の強み】

・北海道は我が国の食料供給基地

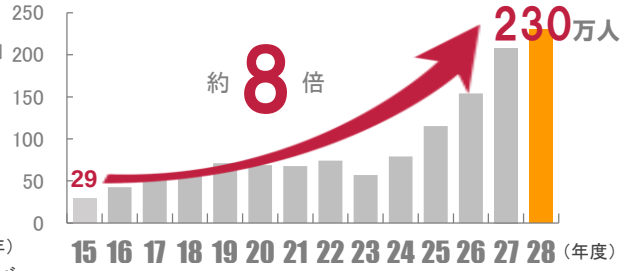
道産食品輸出額：7年で約3倍に



出典：北海道調べ

・食の輸出、外国人観光客も急増

来道外国人旅行者数：13年で約8倍に

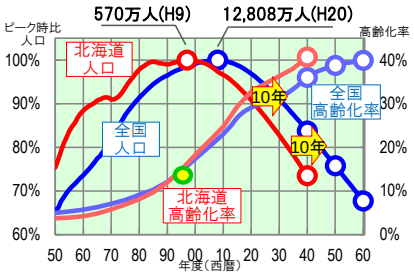


出典：北海道「北海道観光入込客数報告書」

【北海道の課題】

・北海道の人口減少は全国よりも10年先に進展

・本州等とは距離感の異なる広域分散型社会



北海道の広さ

【これからの北海道の戦略】

「食」・「観光」が戦略的産業

～人口減少時代にあっても、
①北海道には世界と競争し得るポテンシャル
②アジアなど世界の市場が拡大傾向

→ 農林水産業、観光等を担う**「生産空間」**を支え
「世界の北海道」を目指す

重点的に取り組む事項

❶「観光先進国」実現をリードする**世界水準の観光地の形成**

❷ **食料供給基地**としての持続的発展

❸ 食と観光を担う**「生産空間」**を支える取組

- **北海道型地域構造**の保持・形成
- 地域づくり人材の発掘・育成
- 強靭で持続可能な国土づくり

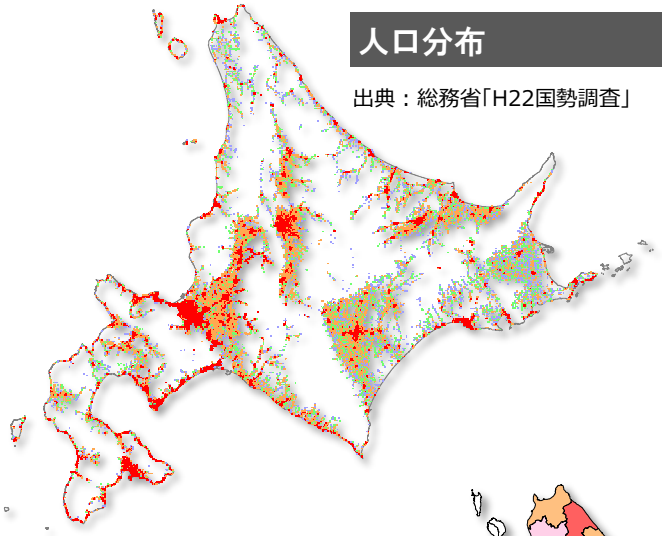
2. 北海道の強みと個性 ～強みを支える「生産空間」～

国土交通省
「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○我が国の課題解決に対する北海道の貢献は、「食」・「観光」・「エネルギー」等、多岐にわたる。
○特に、主として農業・漁業の生産は地方部で行われ、食料供給に大きく貢献。
○また、観光資源・地域資源は地方部にも広く分布し、観光サービスの生産空間としての側面もあり、雇用の創出も期待。

人口分布

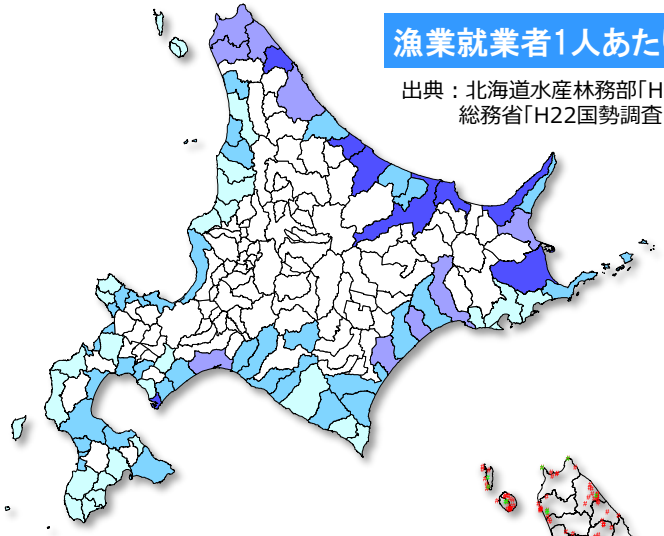
出典：総務省「H22国勢調査」



３次メッシュ　人口総数
- 0人
- 1 － 4人
- 5 － 9人
- 10 － 49人
- 50人 －

漁業就業者1人あたり漁業生産額

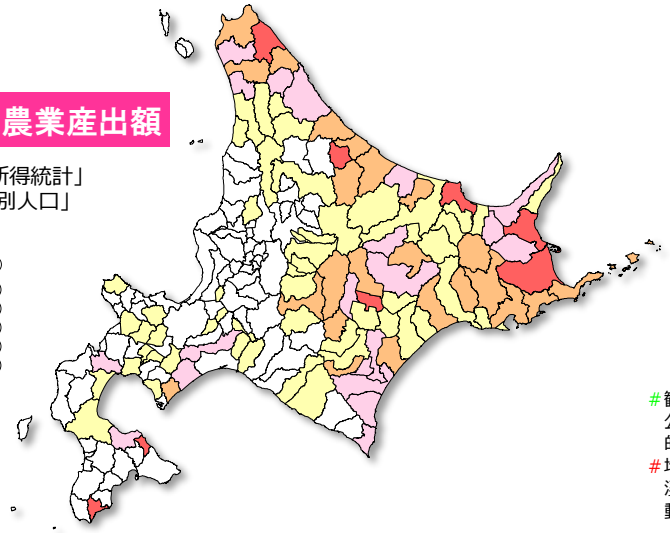
出典：北海道水産林務部「H24北海道水産現勢」
総務省「H22国勢調査　産業別人口」



漁業就業者１人あたり
漁業生産額（千万円/人）
- 0 (101)
- 0 － 0.5未満 (28)
- 0.5 － 1.0未満 (34)
- 1.0 － 1.5未満 (8)
- 1.5 － (8)

農業就業者1人あたり農業産出額

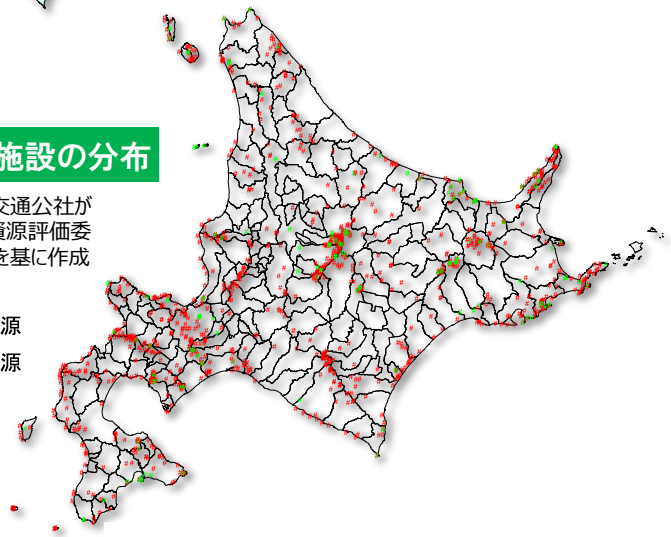
出典：農林水産省「H18生産農業所得統計」
総務省「H22国勢調査　産業別人口」



農業就業者１人あたり
農業産出額（千万円/人）
- 0 － 0.6未満 (77)
- 0.6 － 1.0未満 (51)
- 1.0 － 1.2未満 (20)
- 1.2 － 1.4未満 (23)
- 1.4 － (8)

地域資源・観光施設の分布

出典：「観光資源台帳」（(財)日本交通公社が事務局として設置した「観光資源評価委員会」が検討・選定し作成）を基に作成



観光資源
地域資源

#観光資源（史跡、社寺、城跡、城郭、庭園、公園、歴史景観、地域景観、年中行事、歴史的建築物、現代建造物、博物館・美術館）
#地域資源（山岳、高原、原野、湿原、湖沼、渓谷、滝、河川、海岸、岬、島、岩石、洞窟、動物、植物、自然現象）

3. 北海道の強みと個性 ～生産空間の現状と課題～

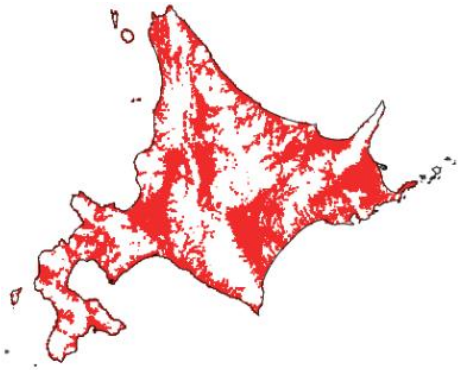
国土交通省
「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○今後、人口減少・高齢化の急速な進行により、北海道最大の強みである第1次産業や観光の「生産空間」の維持が困難になるおそれ。
○地方部の集落の「住まい方」は散在・散居形態が主であり、都府県と大きく異なり、また、地方部は日本の国土の1/5を占める面積に広く分散しており、都市間距離が大きい。

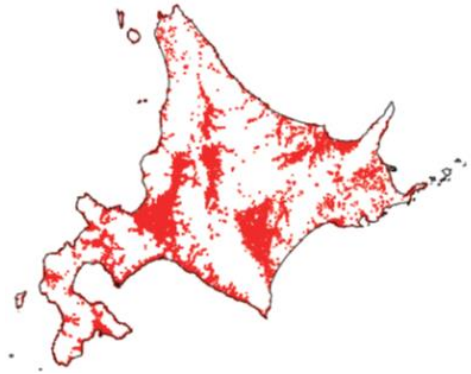
人口減少・高齢化の急速な進行

半数が無人化の危機

2010年の人口分布※1



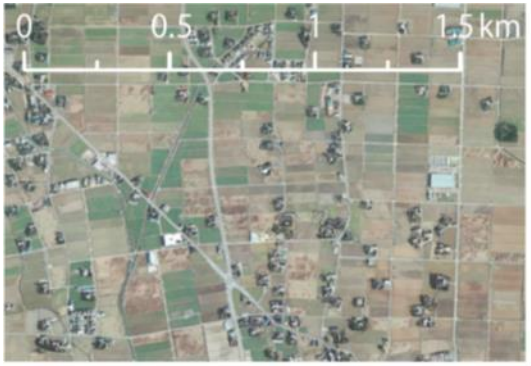
2050年の人口分布※1



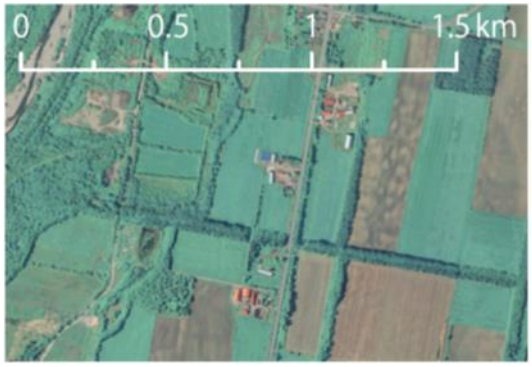
散居形態

集落の74%が散居型※2

他府県の例(富山県砺波市) ※3



北海道の農村(上士幌町) ※3



このような状況下では、生活施設まで遠く、公共交通の運営が困難など、人口定着には不利な環境

↓

このままでは将来
北海道の「強み」を提供できなくなる可能性

↓

今、まさに「生産空間」の維持・発展が急務

※1 出典：総務省「H22国勢調査」、国土交通省「国土数値情報（土地利用3次メッシュ）第2.3版」、「国土数値情報（将来推計人口メッシュ（国政局推計））」を基に作成。
※2 出典：竹内慎一（北海道立総合研究機構北方建築総合研究所）「北海道の集落の実態分析による地域防災力に関わる評価指標の検討」地域安全学会論文集(14),pp37-46,2011-03
※3 写真：NTT空間情報（株）

4. 北海道型地域構造について

国土交通省
「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

○北海道の**「生産空間」**は、主として農業・漁業に係わる場として、食料供給に大きく貢献し、観光その他多面的・公益的機能を提供。これからもその役割を果たし続けるとともに、それを支える人々が住み続けることが必要。
○このため、都市機能・生活機能が日常生活に支障のない水準で提供される**「基礎圏域」**を形成し、**「生産空間」**での暮らしを広域的に支えつつ、人々の活発な対流を促進。

北海道の「**強み**」を支える「**生産空間**※」として、
10年後も、2050年もその役割を果たし続けるとともに、
それを支える人々が住み続けることが必要

そのためには、「定住環境の確保」が必須

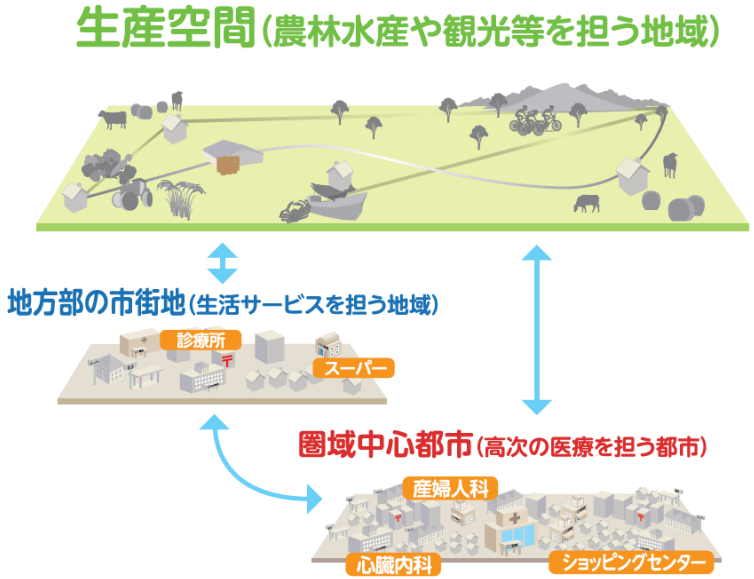
頼り頼られる３つの層の
「**重層的な機能分担**」と「**ネットワークによる連携**」
（**北海道版コンパクト＋ネットワーク**）
で課題に対応

下記の観点についての取組を有機的・総合的に実施。

所得・雇用の確保	地域の魅力向上
生活機能・集落機能の確保	安全・安心な社会基盤の形成

※**生産空間**：主として農業・漁業に係わる生産の場(特に市街地ではない領域)を中心とし、観光等の多面的･公益的機能を含む

北海道型地域構造～頼り頼られる3つの層～



○「生産空間の維持」に視点を置いた分析を行うため、
「地方部の市町村」をさらに①生産空間と②市街地に分類。
○これに③圏域中心都市を加え
①地方部市町村の生産空間→ ②地方部市町村の市街地 → ③中心都市
という流れで各階層及び階層間に求める機能を考え、地域構造を分析。
○「①生産空間＋ ②市街地 ＋③中心都市」の３層を、北海道の地域構造を検討する際の**「基礎圏域」**と設定